

令和 7 年 3 月

令和 6 年度 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会

委員長 片山 裕治

岡本 邦子 立石 かほる

原田 美千代 野間 紀子

小玉 綾子

【報告にあたって】

- 評価項目は令和 6 年度の「城山小学校教育課程」を基として、「教育の基本方針」と「児童の健やかな心身育成」を項目といたしました。
- 本報告書は、令和 6 年 11 月 25 日を起点に 5・6 年生 135 名(回収率 98%)、保護者 331 名(回収率 74%)、地域 23 名(回収率 61%)に実施されたアンケートを世田谷区教育委員会事務局が集計した結果と、「城山小学校 自己評価報告書」を参考にして作成しました。
- アンケート回答の
 - A 「とても思う」と B 「思う」を肯定的回答
 - C 「あまり思わない」と D 「思わない」を否定的回答
 - E 「分からぬ」は不明回答と表現することにしました。

【昨年度との変更点】

- 世田谷区教育委員会事務局作成の共通項目と学校独自項目に変更があります。そのために、昨年度との比較ができない項目が一部あります。

【アンケートの表記】

アンケート番号を以下のように簡略に表記します。

例：児童 共通項目 1 学習について (1)番目

⇒ 児共- 1 -(1)

児童 学校独自項目 ①児童用 (1)番目

⇒ 児独-①-(1)

以下、保護者・地域も同様

保護者 ⇒ 保共- 1 -(1)

保独-①-(1)

地域 ⇒ 地共- 1 -(1)

地独-①-(1)

※全ての評価項目の結果（数値）は、3 月 18 日公表予定の学校 HP でご確認ください。

1 児童が主体的に学び、新たな知を創造する学習活動の構築

- ☆児童は概ね学習に主体的に取り組んでいるようである。
- ☆社会に出て役に立ちたい、人の役に立つ人間になりたい等、将来の夢や目標の実現に向けた教育（せたがや探究的な学び）は着実に実践されている。
- ☆児童は先生がICT活用し、分かりやすい授業をしていると実感している。先生方は日々、授業の工夫や丁寧な指導を心掛けている。

<主体的に取り組む学習>

主体的に取り組む学習は、児童が学習に興味を持って積極的に取り組み、学習活動を振り返ったり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要だと捉え、児童が授業中に先生や友達の話を聞くことや、考えを伝え合い、考えを深めたりすることが実感できているかを指標にすることにした。ほぼすべての項目で肯定的回答が高く、保護者もほぼ同様であった。

<せたがや探究的な学び>

「せたがや探究的な学び」は教科の特質を生かして自らの課題を発見し試行錯誤しながら自己実現を目指す。育てたい児童生徒像は、・学んだことが社会で役に立つという実感・将来の夢や目標の実現への意欲・人の役に立つ人間になりたいという意思をもっている、である。そこで「生き方や将来のことについて考える授業がある」を指標としたところ、児童の肯定的回答は昨年度よりも15ポイント上昇し87%であったが、保護者は昨年度よりも低迷した。日々の教育活動の様子を保護者に伝えていくことが課題である。

<ICT活用>

映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしていると児童が実感できる授業が展開されている。令和7年度予定のデバイスのリプレイスに伴った、ICT周辺の更なる環境整備を最大限活用し、より効果的なICT活用と推進を期待する。

アンケート対象・番号・内容	肯定的回答の様子		
	R5(%)	R6(%)	
児独-①-(1)「私は、先生や友達の話や発言を最後まで聞くようしている」	93	90	↖
児独-①-(4)「私は、自分からすすんで自分や友達の考えを伝え合ったり、自分の考えを深めたりしている」	75	77	↗
児共-1-(2)「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を探している」	97	93	↖
児共-1-(4)「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」	97	97	→
保共-1-(3)「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」	85	83	↖

児共-4-(1) 「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」	72	87	↗
保共-4-(2) 「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」	51	43	↘
児共-1-(5) 「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」	88	90	↗

2 集団作りを通じた協働的な教育活動の推進

- ☆学校行事は、児童・保護者共に高い評価で、地域の理解・周知も進んでいる。
- ☆児童同士、児童と先生の力を併せた教育活動が充実している（「協働的な学び」）。学校と外部との協働について今後は検証を求めたい。
- ☆学校は、全ての教育活動を通して、児童の人権を大切にしている。

<特別活動（学校行事）>

協働的な教育活動の推進に向けた好ましい集団作りには、特別活動は大切な要素であろう。中でも、学校行事に参加している児童も・それを見守っている保護者も・長年の行事を知る地域の方々も、全ての質問に対して昨年度に引き続き高い評価であった。

また、地域の方々への事前の準備や当日の案内などの、地域への配慮に関しては昨年度に比べ高い評価であった。これは先生方、学校主事の努力の成果であろう。今後もより良い教育活動ができるよう、学校は地域の繋がりを大切にして頂きたい。

<友達と協調・協働して集団の目標を達成する>

「協働的な学び」は、児童が同じ空間で時間を共にすることで、互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことが重要と考える。

児童同士・教師と児童の関わり合いを通しての学びの中で、児童が意欲的に課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を大切にした上で、話し合ったり発表し合ったりすることや、先生にいつでも相談できる関係性について、児童・保護者とも全体的に高い評価がみられる。

一方、地域社会での体験活動や交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性を鑑みると、学校（児童、先生、保護者）と外部（地域住民、地域団体、地域の教育機関）との協働について、今後検証を求めたい。

<人権教育の推進>

児童の9割は、日頃から相手を傷つけるような言葉遣いに気を付けています。学校が全ての教育活動で推進する人権教育は、児童の様子により定着していることがうかがい知れる。

アンケート対象・番号・内容	肯定的回答の様子		
	R5(%)	R6(%)	
児共-1-(2)「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」	97	93	↖
児共-1-(4)「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」	96	97	↗
児共-3-(3)「先生は、児童の意欲を大切にしている」	93	92	↖
児共-5-(2)「先生たちに相談できる」	79	78	↖
児独-①-(4)「私は、自分からすすんで自分や友達の考えを伝えあつたり、自分の考えを深めたりしている」	75	77	↗
児独-①-(8)「私は、自分からすすんで集会やとも遊び等に参加している」	70	75	↗
保共-1-(3)「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合つたりする機会がある」	85	83	↖
保独-②-(4)「本校は、集会やとも遊び（たてわり班集会）等を推進し、子供たち同士の関わり合いを大事にしている」	90	91	↗
地共-2-(2)「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある」	68	87	↗

3 一人一人に応じた教育活動の推進

☆多くの児童が一人一人に応じた授業・対応がされていると感じている。今後も『すべての児童が「授業が楽しい」と実感できる授業』を追究し続けることを期待する。

☆教職員は協力して教育活動をしている。

<個に応じた最適な指導>

すべての児童が「授業が楽しい」と実感できる授業が求められている（児童共通の 1-(1)）。そこで、児童一人一人に応じて、映像やタブレットを工夫したり、適時適切に談にのったりする丁寧な指導を実感できているかを指標にすることにした。ほぼすべての項目で肯定的回答が高く、保護者もほぼ同様であった。「個別最適な授業」は学習指導要領の中でも強調されている。今後も『すべての児童が「授業が楽しい」と実感できる授業』を追究し続けることを期待する。

<教職員>

校長を中心とした教職員の協力体制を問うアンケート結果が、昨年に比べて、6 ポイントダウンした。8割5分以上の方は教職員の協力体制を実感しているので、問題視することではないのだろうが、学校は原因解明したいところであろう。

アンケート対象・番号・内容	肯定的回答の様子		
	R5(%)	R6(%)	
児共-1-(1)「学ぶことが楽しい」	—	75	
児共-1-(5)「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」	88	90	↗
児共-5-(1)「先生たちは、ていねいに指導してくれる」	96	90	↘
児共-5-(2)「先生たちに相談できる」	79	78	↘
保共-1-(4)「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」	79	73	↘
保共-8-(2)「校長はじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」	93	87	↘

4. 保護者、地域と共に育つ教育活動の推進

- ☆情報提供について、地域・保護者共に肯定的な回答が多いが、「学び舎」の活動に向けた情報発信には課題が残る。
- ☆地域の方々は「学校公開や、行事に参加したい」という意欲があるものの、保護者・地域共に、学校が人や施設を教育活動に生かしている実感は薄い。
- ☆児童は学校行事を楽しみにし、達成感を感じているが、保護者は学校行事やPTA活動、地域行事への協力の意識は必ずしも高くない。
- ☆地域の方々は、通学時に交通ルールを守っている児童は約7割と感じている（昨年約9割）。児童に変化があったのだろうか。

<学校からの情報提供について>

アンケートでは、「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」という項目では、地域は100%となったが、「学校のホームページに学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」という項目となると80%台に下がる。数値的には、肯定的回答であるが、地域向けの発信はまだ紙媒体の方が浸透している様子が見られる。保護者についても90%を超える肯定的な回答が多い。情報の提供は肯定的な評価が高い一方で、「学び舎」の活動については、地域は、半数程度、保護者は30%を下回り、届いていないことが読み取れる。引き続き効果のある方法で情報を発信していくことが望ましい。

<地域との連携について>

「地域の人や施設を教育活動に生かしている」という項目について地域アンケートでは昨年度より10ポイント近く下がっている。保護者の回答になるとさらに下がる。地域の人材活用をさらに進め、教育活動の充実を図ってほしい。また、「学校公開や、行事

に参加したい」という地域の声は90%を超えており、そこに働きかけることにより達成可能なのではないかと考える。

<学校運営・学校行事>

「学校の重点目標が明確である」という質問に対しては地域、保護者とも、若干昨年より増えており、学校の取り組もうとしていることが理解されていることが分かる。これからも引き続きわかりやすく発信してほしい。

「学校行事の充実」「学校の安全性」についても90%以上の肯定的な回答があるので、引き続き取り組んでほしい。「学校行事は、子どもにとって楽しい」「達成感がある」という項目について保護者は肯定的な回答が多く高い数値が出ているので、児童の様子から保護者に伝わっていることが推測できる。また、「学校行事、PTAや地域行事に進んで協力している」という項目は、昨年より下がり、60%となっている。保護者が行事に協力しやすいような働きかけや、積極的に協力してもらうには何が必要なのかなど、考察を要する。

<安全指導について>

「通学している子どもたちは交通ルールなどを守っている」という項目について、地域は昨年90%あったものが今年度は70%台と大きく減少している。何か事象があったのか、子どもの行動に変化があったのがアンケートからは読み取れないが、交通ルールなど安全指導の充実が必要と思われる。

アンケート対象・番号・内容	肯定的回答の様子		
	R5(%)	R6(%)	
保共-7-(1)「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」	93	92	↖
保共-7-(3)「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」	92	93	↗
保共-3-(1)「学校行事は、子どもにとって楽しい」	94	96	↗
保共-3-(2)「学校行事は、子どもにとって達成感がある」	92	92	→
保共-10-(1)「本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている」	71	69	↖
保共-11-(2)「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで子どもに安全に関する指導をしている。地域に情報を提供している」	93	91	↖
地共-2-(1)「学校行事の内容は充実している」	95	97	↗
地共-3-(1)「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」	96	100	↗
地共-3-(4)「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」	91	87	↖
地共-4-(1)「学校の重点目標が明確である」	86	97	↗

地共-5-(1)「地域の人や施設を教育活動に活かしている」	86	77	↖
地共-6-(1)「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」	91	90	↖
地独-③-(5)「学校公開や学校で行われている行事に参加したい」	91	97	↗

5 児童の健やかな心身の育成

☆児童の多くが、挨拶や言葉遣いを大切に捉えられている。学校や家庭・地域の継続的な取り組みの成果が表れているのであろう。

☆就寝と起床時刻を決め、規則正しい生活を心掛けていることを問う項目は、昨年の72%から50%台と大きく減少している。原因を究明し指導に繋げて欲しい。

<挨拶・葉遣い>

児童の多くは、気持ちの良い挨拶を心がけていたり、言葉遣いに気を付けて話したりしている。地域の方々からも、肯定的に捉えられている。おそらくは、学校を一步出てからも地域の方々への挨拶や大切にしているのであろう。学校の継続的な取り組みと共に、家庭・地域による児童を取り巻く好ましい環境の成果でもあるのであろう。

<健康・体力向上への意識>

就寝と起床時刻を決めるなどの規則正しい生活を心掛けている児童は減少傾向にある(73%→56%)。しかし、保護者の74%が子どもは健康な生活に取り組んでいると回答している。家庭の生活環境も影響していることも含めて考えたい。

すすんで外遊びをしている児童は、今年も約7割。体力向上と言うと体育やスポーツ・トレーニングが思い浮かぶであろうが、小学生のこの時期に外で元気に遊ぶことが体力向上に直結する。また、学校で体を動かし遊び疲れることは、(前述の)規則正しい睡眠にも繋がることかもしれない。

アンケート対象・番号・内容	肯定的回答の様子		
	R5(%)	R6(%)	
児独-①-(5)「私は、気持ちのよいあいさつを心がけている」	79	86	↗
児独-①-(6)「私は、言葉のつかい方（相手を傷つけないなど）に気を付けて話している」	81	89	↗
児独-①-(9)「私は、自分からすすんで外遊びをしたり、体を動かしたりしている」	70	69	↖
保共-6-(5)「子どもは、体力向上や健康な生活に取り組んでいる」	80	74	↘
地独-③-(3)「子供たちは、あいさつや望ましい言葉遣いをしている」	86	87	↗